

福島第一原発での放水作業  
について、1986年のチェ  
ルノブイリ原発事故で消火活  
動に参加した、全ロシア原子  
力エネルギー工業研究所のイ  
ーゴリ・オストレツォフ元研  
究員に写真に聞いた。

(モスクワ 貞広貴志)

現場の状況がよくわからな  
いので評価は難しいが、放射  
線量はかなり高いのだろう。

# 真水の継続的な供給必要

## 効果的な対策は

### 露の専門家に聞く



使用済み燃料プ  
ールにある燃料  
棒が溶融し始め  
ているのかわし  
れない。深刻な状況のようだ。  
何らかの装置を使い、とに  
かく施設に水を注入するしか  
ない。重要なのは補充に時間  
がかかっても海水でなく真水  
を使い、使用済み燃料プール  
と原子炉の両方に大量かつ継  
続的に供給することだ。海水  
だと、燃料棒に塩分などが付  
着し、冷却効率を落として結

局は温度が上がってしまつ。  
チェルノブイリでは最初の  
爆発後は基本的に事態は拡大  
しなかったのに対し、福島で  
は時間を追って危機が広がっ  
ている。土壌と地下水の放射  
能汚染の危険性は高く、最終  
的には、チェルノブイリと同  
様、原発を石棺のような建造  
物で覆う必要が出てくると思  
う。